

麦作情報第1号

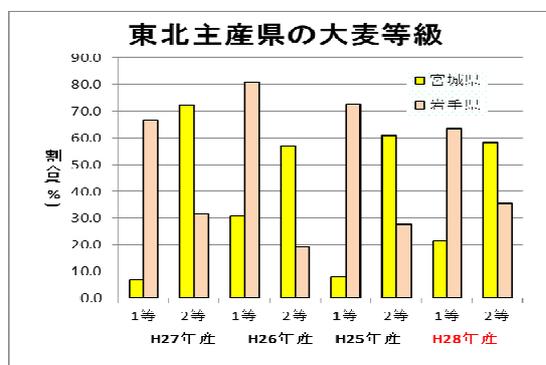
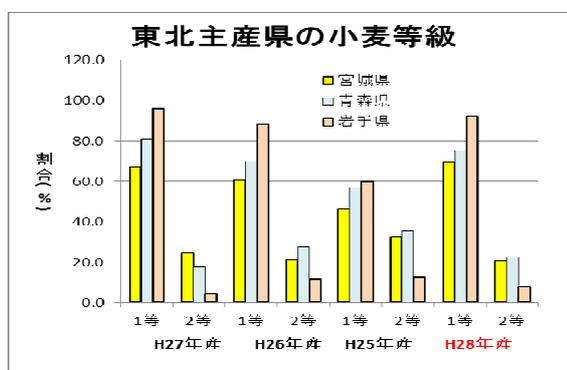
平成28年10月25日
J A 全農みやぎ

～麦類の安定・高品質生産のため「適期播種」を！！～

1 宮城県を中心とした平成28年産麦類の生産概況

(1) 東北主産県の品質

- ・宮城県の小麦の品質は、東北主産県の中でやや低い傾向にある。
- ・小麦生産量は岩手県に次いで多く、平成28年産は5,165tで一等麦比率は、70%弱となった。
- ・宮城県の大麦生産量は、3,249tと東北のほとんどを占めるが、一等麦比率は、ここ数年10%未満～30%程で推移しており、平成28年産は20%強であった。



(2) 宮城県麦類の生育と品質概況

【麦類生育】

- ・暖冬の影響で平成28年産も生育ステージが進んだことから、出穂期頃の茎数は、平年より少なく8割程度で推移した。
- ・成熟期は、大麦が5月31日～6月7日、小麦が6月7日～6月23日頃となり、平年より大幅に早まった。

【大麦品質】

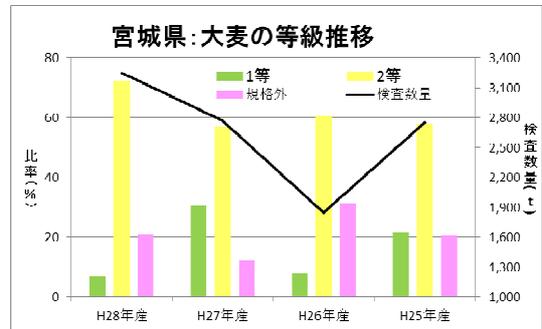
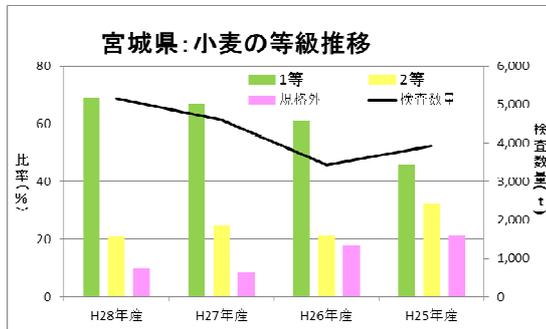
- ・品質は、1等が6.7%、2等が72.3%になっており、1等比率は、昨年最終30.3%を大幅に下回っている。
- ・2等以下の格付理由は、形質が99.1%で被害粒(硬質粒)0.5%となっており、落等の大半を占めている。
- ・要因としては、春先以降も高温傾向が継続し生育が大幅に早まったことにより登熟期間が十分に確保できず細麦傾向(細麦傾向)になったものと思われる。

【小麦品質】

- ・平成28年産の小麦は生産量も多く、一等比率は、70%弱で昨年産の最終をやや上回っており、過去5年間では最も高い比率となった。
- ・銘柄別では、「シラネコムギ」で被害粒(発芽粒)の混入が散見されたものの、概ね良好

で一等比率は75%となっている。

- ・「ゆきちから」の品質は良好で一等比率は82%程度となっている。
- ・「あおばの恋」は、例年に比べ粒の背部に緑色が残る未熟粒の混入が多く、一等麦比率が9%程度と低くなっている。



2 平成28年10月の気象経過

- ・10月中旬の気温は、平年・前年より最低気温がやや低く、下旬も同様の傾向が続いている。一ヶ月予報をみると気温は日照が多いものの気温はやや低めとなっている。

月	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
10月上旬	16.5	21.1	11.4	5.5	44.3
平年差	0.7	0.2	0.3	-40.5	2.0
前年差	1.7	0.1	4.1	-6.5	-38.6
10月中旬	13.2	20.7	6.7	3.0	68.6
平年差	-0.6	1.4	-2.1	-30.2	22.3
前年差	-0.3	0.5	-1.4	2.0	4.8

3 平成29年産の麦類生産に向けて

- ★麦類は、冬に向けて播種生育するので、適期に生育量の確保が最も重要である。
- ★稲わらや大豆収穫を出来るだけ早く行い、播種を迅速に進めることが必要である。
- ★麦類の播種後、生育促進や今後の生育確保のため、暗渠・明渠・弾丸等の排水対策を徹底する。

(1) 適期播種

- ・播種が遅れると分けつの発生が遅れ、根張りも不良で寒害にも弱い。
- ・生育の遅れは、遅発分けつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生で品質が低下する。
- ・播種量は、大麦で8~10kg/10a, 小麦で9~11kg/10aを基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新, 選種, 種子消毒を確実に実施する。

【播種期】 北部平坦及び三陸沿岸地帯 晩限 10月20日
南部平坦地帯 晩限 10月30日

明渠設置
の麦圃場
(4月)



適期播種の
麦 (古試)

(2) 排水対策

- ・圃場内にも明渠 (30~40cm 深) を設置し、本暗渠, 弾丸暗渠を組合せる。